

1 題材について

児童観

【児童の実態】

診断名は学習障害である。拗音や拗促音の表記、カタカナ、漢字の書き取りが難しく、作文では誤字が多い。連絡帳の表記は、ほとんどひらがな表記であり、担任が話した時間割を聞いて書く時には、教科名を漢字に変換することが難しかったが、担任の視覚的な支援により漢字で書けるようになった。

本児は第4学年の習熟度別授業の時に障害による学習上の困難さが顕著になり、発音も気になるということで、ことばの教室である本校に第5学年から入級した。

【ことばの教室に入級当初の様子】

見学の際には、ほとんど言葉が出なかった。母とひそひそ声で話す程度であり、会話をすると口の開きが小さく、発音も不明瞭であった。本人は「正しい文章が書けるようになりたい。」母は「話す・読む・書くが苦手なので、それができるようになることで、楽しみや達成感を味わい、明るい気持ちで生活してほしい。」との思いをもたれている。

【1学期のことばの教室での様子】

本児は他校通級のため、指導時間を2時間続けて行っている。会話から[do]→[ro], [su]→[fu], [se]→[fe]に置換して聞こえた。音をよく聞いていると[rakuda]の発音では頭語の[ra]よりも語尾の[da]の方が不明瞭に聞こえた。また、作文の表記には「これれおわります。」と自分の発音を元にして書いているように考えられた。

【通常学級での様子】

1学期末に学級訪問した時に社会科の授業を受けていたが、椅子を前後に揺らしていた。授業内容の「産地から県名をあげる」は、県名の漢字が読めず言えていなかった。教室掲示にあったためあての表記は、「走」「人」のみ漢字を使い、ほとんどひらがなであった。連絡帳や宿題などの提出物も毎日出せず、担任から声を掛けられると出すようであった。

【2学期始めのことばの教室での様子】

「改訂版 構音検査(千葉テストセンター)」の構音検査を行ったところ、単語検査[budo:]→[buro:], [semi]→[femi], [tiisai]→[tiifai], 文章検査[suberidai]→[suberirai]とはっきりと置換して聞こえたが、単音語の[da]→[ra], [do]→[ro]の置換はないことが分かった、さらに検査をまとめると、構音位置の歯茎音である破裂音や弾き音が発音しにくい音であり、破裂音や摩擦音も正しいとは言えないことが分かった。1学期から舌の運動をして、細かな動きがでにくいと感じていたが、舌の拳上やコントロール性を改善が必要であることが明確になった。

題材観

本題材は、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)「6 コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること。」「(3)言語の形成と活用に関すること。」の内容に基づき設定した。学習指導要領解説には、以下のように示されている。

「(2)言語の受容と表出に関すること。」は、話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすることを意味している。

構音障害のある場合、発声・発語器官(口腔器官)の微細な動きやそれを調整することが難しかった。

たり、音韻意識の未熟さがあつたりするため、正しい発音にならないことがある。そこで、構音運動を調整する力を高めたり、音韻意識を育て、音の弁別や自分の発音をフィードバックできるようにしたりして、正しい発音を定着させることが大切である。

「(3)言語の形成と活用に関すること。」は、コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにすることを意味している。

LDのある児童生徒の場合、言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ないことがある。そこで実体験、写真や絵と言葉の意味を結び付けながら理解することや、ICT機器等を活用し、見る力や聞く力を活用しながら言語の概念を形成するように指導することが大切である。

正しい発音をするために、構音の位置を示したり、音の弁別をさせたりしながら、自分の発音を意識させていくことで、正しい発音を獲得する。また、正しい表記を行うために、音のまとまりを意識させて表記できるようにすることで言葉の基礎を定着させていく。

指導観

【構音指導】

1学期は、発音の獲得段階を考えて[da]と[ra]，[do]と[ro]の区別を発音と表記と練習して行ってきたが、舌が前歯の裏側に届きにくい。歯で舌を噛むよう意識しないと[da]に聞こえる発音が難しいことから、構音位置の理解とともに、舌の動かし方など発声器官の運動機能も高めていく。

【弁別学習】

他者が行う発音については正誤の判断できるが、自分の発音の間違いには反応を示さない。本児の発音を録画したものを聞かせても反応があまりなく判断がつかない。また、自分が間違ふことへの抵抗も高いことから、すぐに児童の正誤の判断よりも、自分の発声練習から正しい音を聞いて、明瞭に発音できるようになることで、正しい発音を聴く力をつけていく。

【音韻意識】

「ひらがな単語聴写テスト」で行ったアセスメントからは、拗促音の間違いが5問中全て誤答であり、濁音「ど」を「ろ」と書き間違えていた。音韻意識も弱く促音のモーラ音素に気付かないことや、空間感覚が弱いために音の隙間に気付きにくく、表記にも影響していると思われる。音を拍手や○をつけさせることで視覚化し、正確に表記できるようにしていく。

2 指導の目標

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
構音・弁別	舌平の形を保持し、舌の拳上をすることができる。 歯茎音の舌の正しい位置を理解することができる。	正しい音か誤った音かを区別することができる。 正しい構音位置を知り、正しい位置に舌を動かすためにやりやすい方法を試そうとする。	正しい発音をするために、自分の口の中を鏡で確かめたり、画像をみたりしながら取り組もうとする。
音韻意識	言葉の最小単位モーラに分けて考えることができる。 促音・拗音・拗長音・拗促音の単語の言葉を、正しく表記することができる。	単語の促音・拗音・拗長音・拗促音に気づき、表記を判断して書く。判断に迷った時には、声に出したり、拍を打ったりして考えようとする。	単語の促音・拗音・拗長音・拗促音に気づき、正しく表記するために気を付けようとする。

3 指導計画

月 内容	5 6 7	9 10 11 12	1 2 3
【舌の運動】	舌を出す。 舌平らの舌を作る。	舌を持ち上げる。 舌先を使う。	舌の運動を意識的にする。
【音の弁別】	[da]と[ra] [do]と[ro] 他者の発音の違いを 区別する。	[da]と[ra] [do]と[ro] 他者の無意味音や有意味音の単 語の音を聞いて、違いに気づく。	[da]と[ra] [do]と[ro] 自分の無意味音や有意味 音の単語の音を聞いて、 音の違いに気づく。
【発音】	[da]と[ra]を含んだ 単語の練習をする。	[da]の[ra]の舌の構音点を意識 して発音をする。 (単音節・母音との組み合わせ)	[da]の[ra]の舌の構音点 を意識して発音をする。 (子音・有意語との組み合 わせ)
【音韻意識】		拗音・促音・拗長音・拗促音の音 のまとまり知り、表記する。	文章の中で、拗音・促音・ 拗長音・拗促音を表記す る。

4 本時の目標

- ・単音 [da] と [ra] について構音点を意識して聞き分けたり、発音したりすることができる。
- ・拗長音のある単語を正しく表記することができる。

5 本時の展開

授業の流れ	学習活動	教師の働きかけと ねらい	支援と評価（○支援☆評価）
1 体の調整 学習課題 (10分)	・認知作業トレーニング（C OGOT）を 行う。	・認知作業トレーニング 「自分の体を知る」を行 い、身体感覚をつかませ る。	○運動のねらいを意識させて体を 動かすようにさせる。
	①[da]と[ra]の音を聞き分けて発音しよう。 ②ねじってのばす音を正しく書こう。 ・学習課題を確認する。	・本時の課題を知り見通し をもたせる。	○時間とメニューを示し、見通しを もてるようにする。
2 構音の活動 (20分)	・舌の器官機能を向上する。 ①舌平ら ②舌の緊張 ③舌を左右・ 上に動かす ④舌を丸めて 拳上する	・脱力した舌の操作をさ せる。 「ホットケーキのよう な舌」 ・舌出しをして緊張させ る。 「棒のような舌」 ・舌先を左右の口角や歯 茎につけさせる。 ・舌先を丸めて硬口蓋に 当たるよう拳上させる。	○舌にボーロをのせ、舌を脱力させ る。 ○目標時間を設定するとともに、上 達がわかるよう記録をとる。 ○舌先でせんべいに穴をあけさせ ることで、舌を緊張させる感覚を つかませる。 ○粒を舌先につけて、口角・上歯茎 に当たる感覚をつかませる。 ○歯の模型を用いて舌を丸めて拳 上するイメージをつかませる。

	・音を聴く練習をする。 ①聴く態度を作る。 ②/d/と/r/の弁別を行う。 ③指導者の提示する音を聞き，[da]と[ra]の弁別する。	・タブレットを使い音を選ぶことで，意欲的に聴かせる。 ・口の形や舌の位置から正しい発音を聞き分けさせる。構音点を意識させる。 ・視覚的・聴覚的に分かるよう口元を見せる場合と口元を隠す場合の二種類を提示する。 ・[da]と[ra]のつく二音，三音の無意味音を提示する。	○歯の模型で舌の位置を具体的に確認させる。 ☆正しい構音点を意識して音を聞き分けることができたか。 ○正誤の判断をさせる際に，[da]と[ra]の札を持たせることで，音を聞き分けることに集中させる。
	・[da]と[ra]の発音練習をする。 ①単音 [da] [ra] ②単音を連続	・正しい構音点を意識させて発音させる。	○歯の模型で舌の位置を確認してから発音させる。 ○自分の発音を確認できるよう，タブレット型端末で発音の様子を撮る。 ☆正しい構音点を意識して発音しているか。
	・リラックスタイム	・休憩時間を取り入れることで，気持ちの切り替えをさせる。	○本人の休息したい思いと時間との兼ね合いを考えて時間を設定する。
3 言語の活動 (10分)	・拗長音の表記を理解する。	・拗長音のまとまりを確認させる。 ・音のまとまりを意識させる。	○拗長音の表記を視覚的に意識させる。 ☆拗長音のある単語を正しく表記できたか。
4 まとめる ふりかえる (5分)	・本時のまとめをしてふりかえる。	・本時の学習をボードを見せて確認する。 ・自分が工夫したことやできるようになったことを考えさせる。	○[da]と[ra]の弁別を構音点で確かめたことを想起させる。